

未来ノート

-202Xの君へ-

ラグビー

つつみか
堤ほの花

自然の中で育つ

男子にタツクル

154センチが強み

五輪でトライを

仲良し双子 習い事も色々

女子ラグビーの日本代表

豊かな自然だった。

堤ほの花(22)は、弟英登と仲の良い双子として育った。母三恵子さん(50)の「子どもとできるだけ一緒に育てたい」という希望もあり、幼稚園に通ったのは週に1日だけ。家族にとつての教室は、地元の

父明英さん(60)は高校、

を養った。

さまざま遊びで運動神経

りもした。竹馬に一輪車、

り、海で泳ぎ、川では魚釣

連れられ、姉弟は山に登

る佐賀県嬉野市出身。母に

美肌の湯の温泉で知られ

豊かな自然だった。

大学とラグビー選手。中学校教諭でサッカー部の顧問だったが、地域に念願だった嬉野ラグビースクールを

書室で過ごすのも好きで、ラグビーは小学校まで、と思っていた。

開いた。3歳の姉弟はその教室に通い、年上のお兄ちゃん、お姉ちゃんたちと遊びの延長で体を動かす楽しさを覚えた。遊びに飽きれば、原っぱで虫を捕まえた。「自然に囲まれ、めい

それが6年生だった2009年10月、16年のリオデジャネイロ五輪からセブンズ(7人制)が正式競技に仲間入りすることが決まった。これが親子の転機に。

つばい体を動かして育った」と父は振り返る。

「中学で美術部に入ろうとしたら、父に猛反対された」と堤。父は笑いながら振り返る。「ラグビーをや

小学校に入学すると、習い事が増えた。珠算、書道に日本舞踊。「楽しみながら、色々な経験をしてもらいたかった。本人の成長の肥やしになればと思ってい

ました」。両親は子どもたちの可能性を探った。

今でこそ日本代表の選手として俊足を生かしてトライも取る堤だが、当時は図

隣県の福岡にある女子のラグビーチームにも通うようになった。

(能田英二)



① 小学校時代の堤ほの花(左端)
② 双子の姉弟はそろいのラグビージャージを着てラグビースクールに通った。いずれも堤明英さん提供



◆「未来ノート」スクラップブックは、全国のASA(朝日新聞販売所)でお配りしています。インターネットの特設ページではイベントやスクラップブックについて詳しく紹介しています。「未来ノート 朝日新聞」で検索してください。